



ローカルの魅力満載

てくてくわがまちさんぽ

Vol.6
宜野湾市

琉球王朝時代の面影を感じる 約3.9km



石積みで囲まれた野嵩クシヌカー(湧泉)は、ウブミジ(産水)やワカミジ(若水)をくんだり、生活を支えてきた場所。



宜野湾市役所に鎮座する15体のシーサーは、2012年の市制施行50周年を記念して陶芸家・山内米一さんが寄贈したもの。



1830年頃、大干ばつが続き、水不足に苦しんだ村の人たちが掘り当てたミーガー(新泉)。現在は拜所となっている。



野嵩ステイバナビラ(袖離れ坂)石畳道は、近世琉球に首里王府の公道として整備された宿道(すくみち)の一部。



首里王府から特別の扱いを受けた琉球八社の一つである普天満宮。中北部最大の聖地といわれ参詣者も多いという。



龍頭を発見！ヒージャーガー(樋川井)への水脈が断たれて、水が湧き出たので龍頭が付けられたそう。

各集落に大切に 残る 貴重な史跡を 探訪

本島中部、西海岸沿いに位置する宜野湾市は、沖縄とアメリカの雰囲気が感じられる場所。西側には美しい東シナ海が広がり、市を横断する国道58号沿いにはアンティーク家具店をはじめ、おしゃれなショップやカフェが点在。週末には多くの人が訪れます。市内には、古き琉球を知ることができる名所や旧跡が数多く残され、王府とのつながりを感じさせます。また、湧き水に恵まれた地域なので、人々の暮らしを支えてきたカー(湧泉)の跡も多く見られます。

Check

コースMAPはこちら



今月の運動量

※歩行時間や消費カロリーは個人差があります

歩行距離 約**3.9**km

歩行時間 約**60**分

消費カロリー 約**205**kcal



広告



10月は里親月間です
すべてのこどもに家庭のぬくもりを



詳しくはこちら